

# 防災・減災に取り組む 市民力を世界会議で発信

都市防災の核となる、市民力や地域力。仙台市連合町内会長会では、第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラムで、「大震災から学ぶ災害に強いまちづくりシンポジウム」を開催する準備を進めています。

仙台市連合町内会長会は、3月17日、シルバーセンターで、公開討論会「大震災から学ぶ災害に強いまちづくりシンポジウム」を開催します。「震災では、避難所の開設や運営など、町内会の役割と責任を強く認識しました。震災で国内外から受けた支援へ謝意を示すためにも、この教訓を世界へ伝えることが使命と思い、参加を決めました」と、会長の阿部欣也さんは話します。

「地域のさまざまな活動は、学校や行政との協力も大切ですが、中心的な役割を担うのはやはり町内会。特に災害時は、町内会が結束して、自ら初動対応に当たらなければ、住民の皆さんの命に関わります」と表情を引き締めます。現在、市内の町内会では、地域の実情に合わせた避難所運営マニュアルの整備が進められており、3月には全地域で完成する予定です。「けれども、マニュアルは作って終わりではありません。実際に訓練を行って検証し、見直しを続けて『生きたマニュアル』にしなければ」と語る阿部会長。地域内で協力しながら作る過程も重要で、防災・減災を主軸とした地域コミュニティづくりが進んでいく、とも教えてくれました。



▲宮城野区・若林区・太白区の東部地域では、津波避難訓練が行われています



▲阿部会長（右）と樋口副会長



▲各地域で避難所運営マニュアルに沿った避難訓練を開催。避難所の開設（上）や広報作成など、多様な訓練が実施されています

世界では珍しい町内会制度。シンポジウムでは、各区の町内会が震災時にどう対応し、今後はどう備えようとしているかを、中心市街地や津波被害のあった東部地域など、地域の特性を踏まえて発表するほか、中学生や市内在住の外国人なども、それぞれの立場から災害への備え方についての提言などを行う予定です。

「世界会議に参加して、町内会という住民組織の力を発信することで、世界の安全・安心に役立てば何よりです。私たちが世界から学び、今後の災害に強いまちづくりを生かしたい」と意気込みを語ってくれました。